

# 救急医学

## 1 構成員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	4人

## 2 教員の異動状況

- 青木 克憲（教授）（H14. 11. 16. ～現職）  
 仁科 雅良（助教授）（H11. 4. 1. ～H17. 4. 30.）  
 吉野 篤人（助教授）（H17. 6. 1. ～現職）  
 金岡 繁（助手）（H16. 7. 1～H17. 7. 31.）  
 河野 智（助手）（H17. 8. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（0編）
そのインパクトファクターの合計	9.86
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	3編（2編）
そのインパクトファクターの合計	13.09

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kono S, Suzuki H, Oda T, Miyajima H, Takahashi Y, Shirakawa K, Ishikawa K, Kitagawa M. Biochemical features of ceruloplasmin gene mutations linked to aceruloplasminemia. *NeuroMol Med.* 2006;8: 361-373.
2. Kono S, Miyajima H. Molecular and pathological basis of aceruloplasminemia. *Biol Res.* 2006; 39(1): 15-23.

インパクトファクターの小計 [6.72]

#### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Miyajima H, Takahashi Y, Kono S, Hishida A, Ishikawa K, Sakamoto M. Frontal lobe dysfunction associated with glucose hypometabolism in aceruloplasminemia. *J Neurol.* 2005 Aug; 252(8): 996-7.

インパクトファクターの小計 [3.14]

### (3) 総 説

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木克憲, 吉野篤人: ショックの診断と初期治療. *救急・集中治療*17(2): 271-275, 2005
2. 青木克憲. MODS. 矢崎義雄, 菅野健太郎監修, 疾患別最新処方第4版, *Medical View*, p32-33, 2005.
3. 青木克憲. Dysoxia. *Current Therapy*23(7)84-85, 2005.

インパクトファクターの小計 [0.00]

### (4) 著 書

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kono S, Miyajima H, Gitlin JD. Brain iron disorders, in Beal MF et al (Editors), *Neurodegenerative Diseases*, Cambridge, Univ. Press, 2005, pp880-889

### (5) 症例報告

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kono S, Suzuki H, Takahashi K, Takahashi Y, Shirakawa K, Murakawa Y, Yamaguchi S, Miyajima H. Hepatic iron overload associated with a decreased serum ceruloplasmin level in a novel clinical type of aceruloplasminemia. *Gastroenterology.* 2006;131: 240-245
2. Nishina M, Yoshino A, Aoki K, Kawabe A. Our experience in medical helicopter systems for emergency medicine. *日本航空医療学会雑誌* 2006;6: 12-14
3. Nishina M, Yoshino A, Aoki K. A report of two cases of suspected food-dependent exercise-induced anaphylaxis. *日本救急医学会中部地方会誌* 2005;1: 6-8

#### 4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (130万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	3件 (50万円)

(1) 文部科学省科学研究費

研究代表者 青木 克憲, 共同研究者 間賀田 泰寛, 吉野 篤人, 山田信幸  
 基盤研究 (C. 2) 「Tissue dysoxia の蘇生に関する実験的検討」 130万円

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	2件
(3) 学会座長回数	0件	4件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	24件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

Kono S, Suzuki H, Oda T, Miyajima H, Takahashi Y. Mutant ceruloplasmin in aceruloplasminemia fails to form aggresome-like inclusion bodies even by inhibition of proteasomal activity. BioIron. 22-26 May 2005. Prague, Czech republic.

ポスター発表

Kono S, Suzuki H, Oda T, Miyajima H, Takahashi Y, Shirakawa K, Ishikawa K, Kitagawa M, Hishida A. Mutant ceruloplasmin in aceruloplasminemia fails to form aggresome-like inclusion bodies even by inhibition of proteasomal activity. XVIIIth World Congress of Neurology. 5-11 November 2005. Sydney Australia

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) 浜松コース 平成17年6月4～5日  
浜松医科大学

3) シンポジウム発表

1. 青木克憲, 吉野篤人。「高度侵襲および重症患者管理における new evidence」組織酸素代謝と early goal directed therapy。第42回日本外科代謝栄養学会 平成17年7月大阪
2. 青木克憲, 吉野篤人。「救急医療の枠組み」輪番制病院群における救命救急センターの役割。第33回日本救急医学会, 平成17年10月大宮

4) 座長をした学会名

青木克憲： 1. 第7回日本臨床救急医学会総会 東京 平成17年4月  
2. 第19回日本外傷学会総会 横浜 平成17年5月  
3. 第33回日本救急医学会総会・学術集会 大宮 平成17年10月  
4. 第42回日本腹部救急医学会総会 東京 平成18年3月

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

青木克憲：日本救急医学会 評議員  
日本臨床救急医学会 評議員  
日本救命医療学会 評議員, 編集委員  
日本熱傷学会 評議員, 認定医委員会委員  
日本SHOCK学会 評議員  
日本腹部救急医学会 評議員  
日本外科代謝栄養学会 評議員, 用語委員会委員  
日本血液代替物学会 評議員  
日本消化器病学会東海支部 評議員  
日本DIC研究会 評議員  
日本救急医学会中部地方会 理事  
日本熱傷学会東海地方会 評議員  
静岡県献じん対策協議会 世話人  
静岡県メディカルコントロール協議会作業部会 会長  
浜松市医師会救急委員会 委員  
浜松市医療救護委員会 会長  
静岡県緊急被ばく医療ネットワーク調査検討会 委員  
静岡栄養代謝の集い 代表幹事  
浜松市救急医学研究会 副会長  
仁科雅良：日本救急医学会 評議員

日本臨床救急医学会 評議員

日本外傷学会 評議員

日本臨床外科学会 評議員

日本腹部救急医学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

### (1) 国内の英文雑誌の編集

1. 日本救命医療学会 編集委員

## 9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. Tissue dysoxiaの蘇生に関する研究

tissue dysoxiaは、細動脈まで運ばれてくる酸素含量の変化（ $DO_2$ ）に対応して酸素の取り込みを調節する機能が低下する結果、組織の要求する酸素量が満たされず酸素負債を生ずる状態と定義される。現在、spectrophotometric analysisおよび組織酸素分圧計により、組織における酸素摂取率（Oxygen Extraction Ratio： $O_2ER$ ）、組織静脈酸素分圧較差（Oxygen Gap： $O_2Gap$ ）、組織酸素分圧（ $PtO_2$ ）の3者を測定し、細胞内酸素負債を推定する検討を行っている。平成16～17年度の科研費により、微小循環不全による動静脈シャントのメカニズムを追及した。今年度は、臓器不全対策としての微小循環蘇生法として、人工酸素供与体の有用性を実験的に検討している。

### 2. 侵襲下における凝固線溶系の変動

外傷・熱傷による外科的DIC病態を種々のメディエーターとの関連から検討し、炎症反応の制御をいつ開始すべきか、そのtherapeutic windowを追及している。

### 3. 広範囲熱傷における大量輸液療法の再検討

広範囲熱傷の初期大量輸液療法について、酢酸リンゲル液の有用性を示すデータが得られたので、今後も症例数の増加に努め新たな輸液療法の指針を追及する。

#### 4. BLS啓発活動

BLS（Basic Life Support, 一次救命処置）は、日常生活の中で突然生じる健康危機に市民が即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムである。われわれは、静岡県内の医療従事者のみならず、学童生徒、中高生、大学生、その啓発活動に努力している。

#### 5. 救急初療技術の標準化に関する啓発活動

ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）、ICLS（Immediate Cardiovascular Life Support）、JPTEC（Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care）、JATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）で構成される救急初療技術の標準化に関する啓発活動を静岡県内で精力的に進めている。

#### 6. 東海地震における市民との医療連携

来るべき東海地震に備えて、公的救助を期待できない発災直後（phase0）における浜松市各自治会自主防災隊員の現場救護、トリアージ、搬送手段の啓蒙活動を、訓練を通じて実践している。